

Q1・目指すクロッキーや憧れているクロッキーは、どのようなものですか？

短い時間だからこそ、自分の持っているものをさらけ出し挑戦するもの。その意味で自分の感性をトレーニングするものでもあります。

Q2・クロッキーで大切にしている要素は何ですか？

彫刻で粘土による本制作に入る前にクロッキーで様々なポーズをしてもらい、対象の面白さ、難しさがどこにあるかを探しています。モデルさんにふさわしい、この人だからこそ出会えるポーズを探します。

Q3・何分のクロッキーが好きですか？また、時間に制約がある事には、どんなメリットがありますか？

2分とか5分。「コレ！とか「ここだ！」というような、自分の感じたことを強く示せる点が好きですね。瞬間にしかできないポーズは、生きている命の形を実感します。

Q4・画面の大きさの好みはありますか？理由があれば教えてください。

特にありませんが、A3程度の大きさの紙に描くことが多いです。慣れているせいか、全体のバランスの把握がし易いです。

Q5・クロッキーの描き出しはどんなことに気を使いますか？

描き出しは慌てないよう数秒でも対象をよく観察し、何を捉えるべきかを確認する場合と、思うままに手を運び、即興性を高めて描く場合があります。

Q6・クロッキーの終盤にはどんなことに気を使いますか？

最初に感じたもの、面白さや魅力を掴んでいるか、全体の見直しながら、気に入らなければ更に新しい線を加えます。

Q7・クロッキーをしていてどんな時に慌てますか？また、どんな時に確信を得ますか？

自分の眼で見た印象、感じが画面に出ていないとき、焦ります。また、それが表れていないときな何度も描き直したりもします。ほんの僅かな違いで、まだ続けていいのだなと安心したりもします。

Q8・動きのあるポーズと静的なポーズどちらが好みですか？又は好きなポーズの傾向はありますか？

モデルのポーズに制作意欲を掻き立てられたり、また、捉えにくいポーズはアプローチを変えたりと、どのポーズも良さを見つけようと試みます。

Q9・手に取る画材によって、描く対象の見え方は変わりますか？

あえて描きにくいもので対象を捉えようとする、アプローチが変わって新鮮に制作ができる場合があります。以前、画材の中にあつた折れ錆びれたカッターナイフの破片を、何気なくそれを使ったことがありました。刃にアクリル絵の具を載せて描いてみたのですが、鉛筆やコンテのように曲線やトーンの強弱ができなく、対象が水平と垂直の中でどう在るかを探るだけになり、そのことが対象の根っこのようなものを捉える方向を得た覚えがあります。

Q10・クロッキーとそれ以外の作品との関係性をどう考えていますか？

私の場合、クロッキーは短時間で全体の状況を把握しようとする意識が強く働いているように思えます。制作が長時間にわたり進むにつれ、最初の印象と違うものになって行くことが多々あります。このような時、意識してクロッキーでの取り組みを重ねながら仕事を進めるようにしています。